

氏名 小原 勝 (おはら まさる) 教授	
担当科目	<p>[教養科目] 教養・キャリア基礎演習Ⅱ</p> <p>[専門科目] 微生物学、口腔外科学、摂食嚥下リハビリテーション学、歯科総合演習ⅠⅡ、口腔解剖学Ⅱ、高齢者・障がい者歯科学、診療補助基礎Ⅰ、診療補助応用ⅢⅣ、臨床・臨地実習、歯科医学特講</p>
研究分野	細菌学、口腔総合診療学、口腔外科学
学位	博士（歯学）
主な教育研究業績	<ul style="list-style-type: none"> 軟骨魚類ゲノム情報をもついたヒト歯牙発生関連遺伝子との バイオインフォマティクス解析. 小原勝, 大林泰二, 西裕美, 小川哲次, 河口浩之, 二川浩樹. 広大歯誌, : 49: 、 1-6、共著、2017年 Removal of mutans Streptococci from saliva to establish non-cariogenic oral flora. -A first step on exploring a new method using flow cytometry and cell sorting (う蝕罹患しない口腔細菌叢を確立するため唾液からミュータンス連鎖球菌除去-フローサイトメトリーを用いた新規方法-) . Ohara M, Hayashi I, Oda Y, Furutani C, Obayashi T, Nishi H, Kawaguchi H. IJRES : 5:、 41-54、共著、2017年 CdtC-induced processing of membrane-bound CdtA is a crucial step in <i>Aggregatibacter actinomycetemcomitans</i> Cytolethal Distending Toxin Holotoxin Formation. (CdtC誘導膜結合型 CdtA の修飾がアグレガチバクター アクチノミセテムコミタンス CDT ホロ毒素形成に重要である) . Tsuruda K, Matangkasombut O, Ohara M, Sugai M. Infect Immun : 86: 、 e00731-17、共著、2018年 フローサイトメーターを用いたう蝕原因菌の迅速検出・定量化の可能性. 小原勝, 海原康孝, 石川隆義. 全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌 9号(通算 24号)37-43. 共著、2020年 採取唾液 48 時間後の口腔常在菌叢の変化. 小原 勝、目瀬 浩、山本大介、高倉裕明、海原康孝、石川隆義. 全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌 10号(通算 25号)29-38. 共著、2021年 過去 10 年間の歯科衛生士国家試験問題からみえてくるもの. 小原勝. 大垣女子短期大学紀要 (accepted) 2022年 Proposal for salivary auto-transplantation as a probiotic against radiation-induced stomatitis. (放射線性口内炎に対する自己唾液のプロバイオティクス化提案) Ohara M, Hayashi I, Takakura H, Yamamoto D, Mese HIJRES :10 (4): 59-72 2022年
所属学会	<ul style="list-style-type: none"> 日本細菌学会(2000年加入：ICD認定医 2009年～) 分子生物学会(2000年加入) 米国細菌学会[A S M](2018年加入) 全国大学歯科衛生士教育協議会(2019年加入)
社会的活動業績	<ul style="list-style-type: none"> 広島県東広島市 1.6 歳児歯科検診従事(H22年4月～H28年3月) カンボジア歯科検診ボランティア参加 (3月第1週) [3回] (H26年、27年、28年) 米国州立 University of Florida フロリダ大学客員研究員 (H29年10月～H30年10月)

その他